令和6年度　伊豆の国特別支援学校災害時の対応

R6.6.24

＊警報発令時・地震の発生については学校からの連絡は原則「COCOO」にて行います。

＊連絡がない場合は通常登校となります。

＊お住まいの地域の気象状況や災害状況と本校の状況が違う場合もあります。
状況によっては、安全を確保し、御家庭の判断で、自宅待機または児童生徒在校時は迎えをお願いします。

＊天候の急変により「記録的短時間大雨情報」が発令されたり、線状降水帯が急に出現したりして、下校ができなくなった場合、安全が確保されるまで校内で過ごすことがあります。

＊高等部で自主通学をしている生徒に関しては、近隣の高等学校と連絡を取り合った上で情報共有し、状況に応じて早めの下校にすることがあります。

＊下校を早めた場合、午後1時10分の一斉下校になります。スクールバスは特別日課バスです。

＊台風の接近に伴い、静岡県付近に台風が上陸することが予想され、大きな被害が予想される場合、その２日前に判断し、給食を停止することがあります。その場合、弁当持参でお願いします。

『気象情報（警報）・避難情報等への対応』

警報等の基準	登校前	在校中（登校後）	下校中
伊豆北に ・「暴風警報」 ・「洪水警報」 ・その他「特別警報」 ・「大雨警報」※1※2が発令	休校 ＊午前6時の発表による ＊スクールバス乗車後は本校で引き渡し	①本校で引き渡し ②スクールバス ③放課後等デイサービス ④学校で過ごす ＊COCOO や電話で連絡	そのまま下校 ＊自主通学生徒は帰宅の確認
伊豆の国市に 「警戒レベル3」 （高齢者等避難開始） 「警戒レベル4」 （避難指示）	休校 ＊午前6時の発表による ＊スクールバス乗車後は本校で引き渡し	①本校で引き渡し ②スクールバス ③放課後等デイサービス ④学校で過ごす ＊COCOO や電話で連絡	そのまま下校 ＊自主通学生徒は帰宅の確認

※1：前時までの雨量において、1時間あたり 20mm 以上が5時間（総雨量 100mm 以上）続いており、今後も 20mm 以上の雨が断続的に降ると予想されている状態で、大雨警報が発令された場合
1時間に 30mm 以上の降雨量が過去6時間のうち3時間記録しており、今後も1時間に 20mm 前後の降雨量が予想されている状態で、大雨警報が発令された場合

※2：線状降水帯の発生や記録的短時間大雨情報の発表等、事前の予測が困難であったり突発的な気象条件が出現したりした場合は、警報発令の有無に関わらず教育活動を取り止めて下校する。または、校内の安全な場所へ避難し、安全が確保された上で順次引渡し等の連絡を保護者にして下校する。

『地震発生時への対応』

震度等の基準	登校前	在校中（登校後）	下校中
伊豆北に 「震度４以下」	安全確認後 通常登校	安全を確認の上 通常授業・通常下校	安全を確認の上 そのまま下校
伊豆の国市 「震度５弱以上」 南海トラフ地震に関する情報（調査中）	休校 ※安全が確保されるまで自宅で待機する。 学校の再開は「COCOO」で連絡 ※スクールバス乗車後は安全な場所へ移動→引き渡し（本校職員派遣）	本校で引き渡し ＊「COCOO」で連絡 	【SB】 安全な場所へ移動→引き渡し ※引き渡し場所、時刻等「COCOO」で連絡 【自主通学者】 そのまま下校 ＊帰宅の確認

地震発生時に学校への電話連絡は御遠慮ください。
情報は「COCOO」や災害伝言ダイヤル等でお伝えします。

それぞれの**警戒レベル**に相当する情報を、**早めの避難行動の判断**に役立ててください。
市町村からの**避難指示等の発令に留意**するとともに、避難指示等が発令されていなくとも**自ら避難の判断**をしてください。
警戒レベル５は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。**警戒レベル３や４の段階で避難することが重要**です。

警戒レベル	住民がとるべき行動	市町村の情報	警戒レベルに相当する気象庁等の情報		
			警報等	キキクル（危険度分布）	指定河川洪水予報
5	**命の危険 直ちに安全確保！** ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	**緊急安全確保** ※必ず発令される情報ではない	大雨特別警報	災害切迫	氾濫発生情報
	＜警戒レベル４までに必ず避難！＞				
4	**危険な場所から全員避難** ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示	土砂災害警戒情報	危険	氾濫危険情報
3	**危険な場所から高齢者等は避難** ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難	大雨警報※ 洪水警報	警戒	氾濫警戒情報
2	**自らの避難行動を確認** ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。		大雨注意報 洪水注意報	注意	氾濫注意情報
1	**災害への心構えを高める**		早期注意情報（警報級の可能性）		

※ 夜間～翌日早朝に大雨警報（土砂災害）に切り替える可能性が高い注意報は、高齢者等避難（警戒レベル３）に相当します。

＊防災気象情報と警戒レベルの対応の詳細については、ホームページをご覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/alertlevel.html

気象庁
Japan Meteorological Agency
〒105-8431 東京都港区虎ノ門3-6-9
TEL: 03-6758-3900（代表）
FAX: 03-3434-9085（耳が不自由な方向け）
ホームページ https://www.jma.go.jp/

令和４年６月

全国瞬時警報システム（Jアラート）警報時における対応

不安定な国際情勢の中、令和4年 10 月4日に「全国瞬時警報システム（J アラート）」による緊急情報が発信されました。その後も数回の弾道ミサイルの発射が確認されています。本校においても、再度「J アラート」が発令されたときの対応を検討いたしましたので、御確認をお願いします。

Jアラート警報時における対応（静岡県にJアラートによる緊急情報が発信されたときの対応）

状況	対応	備考
登校前の在宅中にJアラート発報があったとき。	**自宅待機（原則休校）** できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動してください。	登校の指示等に関する連絡は、「COCOO」にて行います。連絡があるまで自宅待機してください。
登下校中にJアラート発報があったとき 	【スクールバス・バス停や学校までの送迎時】 スクールバス・自家用車送迎の場合は安全確認後、安全な場所に止め、車内で姿勢を低くして、行政からの指示があるまで待機します。 【自力通学者】 弾道ミサイルに注意が必要な地域の列車は、運転を見合わせることとなります。生徒が歩いている時間は早急に職員が韮山駅方面に行き、駅か学校で避難・誘導します。	「避難解除」の情報が確認でき次第、登校又は下校を再開します。合わせて登下校の指示等に関する対応は「COCOO」にて連絡します。 電車に乗っているときは「伊豆箱根鉄道」の指示に従ってください。
学校管理下でJアラート発報があったとき 	【屋内の場合】 できるだけ窓から離れ、頭部を守るためにしゃがむ等の行動をとります。 【屋外の場合】 速やかに屋内へ避難し、「屋内の場合」と同様の行動をとります。 【校外学習の場合】 安全確保の上、校外学習場所の対応に即した行動をとります。	教職員は、児童・生徒の授業を中止し、安全を最優先します。 その後の対応は、「COCOO」で連絡します。
＊Jアラート発令から日本を通過するまで、およそ4分くらいであると推察されます。 学校では情報を収集し、連絡は「COCOO」にて発信いたします。ただし、こうした場合、学校からの連絡は、電話やインターネットネット回線が混雑で使用できない可能性があります。 連絡がこない場合でも保護者の判断で安全が確認できるまで家の中で待機させてください。 学校への電話は御遠慮ください。		

国の対応「弾道ミサイル落下時の行動」（資料）

1　弾道ミサイルが日本に飛来する可能性があると判断した場合

弾道ミサイルが発射された旨の情報伝達　→　避難

【屋外にいる場合】

近くの建物（コンクリート造り等頑丈な建物が望ましい）の中、又は地下（地下街や地下駅舎などの地下施設）に避難する。

【屋内にいる場合】

すぐに避難できるところに頑丈な建物や地下があれば直ちにそちらに避難する。それができなければ、できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動する。

2　その後、弾道ミサイルが日本の領土・領海に落下する可能性があると判断した場合

続報（落下時刻及び落下場所）　→　直ちに避難

【屋外にいる場合】

直ちに近くの建物の中、又は地下に避難する。また、近くに適当な建物等がない場合は、物陰に身を隠すか地面に伏せ頭部を守る。

（ミサイルが着弾した場合は、口と鼻をハンカチで覆いながら、直ちに現場を離れ、密閉性の高い建物又は風上に避難する。）

【屋内にいる場合】

できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動する。

（ミサイルが着弾した場合、扇風機を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。）

※ミサイルが着弾した場合、弾頭の種類によって被害の様相や対応が異なるため、避難行動を続けながら情報を収集すること。

3　その後、弾道ミサイルが日本の領土・領海に落下したと推定された場合

続報（落下時刻及び落下場所）　→　引き続き屋内に避難

4　弾道ミサイルが日本の上空を通過した場合

他に追尾しているミサイルやミサイルから分離した落下物が我が国の領土・領海に落下する可能性が無いことを確認した後、弾道ミサイルが通過した旨の情報　→引き続き屋内に避難する必要なし

※不審な物を発見した場合には、決して近寄らず、直ちに警察や消防などに連絡する。

5　日本まで飛来せず、領海外の海域に落下した場合

続報　→　引き続き屋内に避難する必要なし

※不審な物を発見した場合には、決して近寄らず、直ちに警察や消防などに連絡する。